

## 「安心と希望の医療確保ビジョン」具体化に関する検討会 開催要綱

### 1. 趣旨

地域医療や必要な医師の確保には、将来を見据えた改革が必要であるため、本年1月から会議を開催し、本年6月に「安心と希望の医療確保ビジョン」をとりまとめたところ。この検討会においては、このビジョンに盛り込まれた各種施策の具体化に向けて検討を進めていく。

### 2. 構成員

厚生労働大臣、厚生労働副大臣、厚生労働大臣政務官及び構成員（別紙）で構成する。

### 3. 運営

本会議の庶務は、厚生労働省医政局で行う。  
議事は公開とする。

(別紙)

「安心と希望の医療確保ビジョン」具体化に関する検討会

構成員名簿

海野 信也	北里大学産婦人科学教授
大熊 由紀子	国際医療福祉大学大学院教授
岡井 崇	昭和大学医学部産婦人科学教室主任教授
小川 秀興	社団法人日本私立医科大学協会会長
嘉山 孝正	山形大学医学部長
川越 厚	ホームケアクリニック川越院長
高久 史麿	自治医科大学学長
丹生 裕子	県立柏原病院の小児科を守る会代表
土屋 了介	国立がんセンター中央病院病院長
吉村 博邦	社団法人地域医療振興協会顧問
和田 仁孝	早稲田大学大学院法務研究科教授

- 平成18年度の医療制度改革以後、医師不足や救急医療に対する不安など、医療に関する様々な問題が指摘。
- こうした問題に対し、将来を見据えた改革が必要であるため、あるべき医療の姿を示す「安心と希望の医療確保ビジョン」の策定に向け、平成20年1月から厚生労働大臣の下で検討を開始し、10回にわたる議論を経て、平成20年6月18日にとりまとめを行った。

※ 厚生労働大臣の下に、副大臣、大臣政務官及び有識者によるアドバイザリーボードを設置。  
アドバイザリーボード(敬称略): 辻本好子(NPO法人ささえあい医療人権センターCOML(コムル)理事長  
野中博(野中医院院長)、矢崎義雄(国立病院機構理事長)

## I. はじめに

- 現場地域のイニシアチブを第一とする ○改革努力を怠らない
- 医療従事者のみならず、患者・家族等国民がみんなで医療を支えることが必要

## II. 具体的な政策 ~3本柱~

### ①医療従事者の数と役割

医師数の増加(H9年閣議決定の見直し)、医師の勤務環境の改善(女性医師の離職防止・復職支援)、診療科のバランスの改善等(産科・小児科等の増員方策の検討、麻酔科標榜の規制緩和)、職種間の協働・チーム医療の充実 等

### ②地域で支える医療の推進

救急医療の改善策の推進(量的・質的な充実、地域全体でのトリアージ、夜間・救急利用の適正化)、「地域完結型医療」の推進(医療計画に基づく医療連携体制の推進(地域連携クリティカルパス)、診療所機能の強化)、在宅医療の推進、地域医療の充実・遠隔医療の推進 等

### ③医療従事者と患者・家族の協働の推進

相互理解の必要性、医療の公共性に関する認識、患者や家族の医療に関する理解の支援 等

## III. 医療のこれからの方向性

- 「治す医療」から「治し支える医療」へ